

「妊娠期から子育て期の切れ目のない支援」

事業の趣旨

子ども一人ひとりが健やかに成長することを目的に、保健師などの専門職がチームを組んで妊産婦とその家族の状況を継続的に把握し、必要に応じて関係機関と協力しながら、妊娠期から子育て期の切れ目のないきめ細かな支援を実施することで母子保健の充実を図る。

○平成 29 年度の実施状況

(1) 妊娠期の支援の強化

① 妊婦へのアセスメント強化

保健師等専門職チームが妊娠届出時に妊婦と面接し、妊婦を取り巻く家族・環境を含め現状を把握。妊婦と直接顔を合わせることで気持ちや不安を聞き取り、状況を把握することに努め、安心して出産が迎えられ子育てができるよう支援。

市政センターで母子健康手帳の交付を受けた妊婦へ電話で状況を伺い必要な情報提供を行った。

② 妊婦相談専用電話「マタニティー安心コール」の設置

保健師等専門職チームが専属で妊娠中の不安やわからないことの相談に対応した。

③ こうのとり学級（母親学級）：回数・定員の増と内容の充実

武蔵野市助産師会に委託。助産師の専門性を生かし、内容を充実した。

(2) その他

① 母子保健情報誌「ゆりかごむさしの」の発行

② 武蔵野赤十字病院の周産期スタッフとの情報交換会を開くなど医療機関との連携を強化する等関係機関との連携を推進。

「妊娠期から子育て期の切れ目のない支援」

○平成 30 年度新規事業

(1) 産後早期の支援の強化

① 産後電話の実施 【新規】 (予算額 1,350 千円)

保健師・助産師等専門職が出産後早期に全ての産婦に電話し、電話で状況を把握し、早期のこんにちは赤ちゃん訪問につなげるなど適切な支援により、産後の不安を軽減しリスクの重症化を予防する。

② 産後支援訪問の実施 【新規】 (予算額 1,211 千円)

産後 4 か月未満の母子を対象に、助産師等専門職が訪問し、母親の身体的回復と心理的な安定を図り、産後うつ予防・早期発見・重症化予防、産後早期の不安を軽減する。また、母親自身がセルフケア能力を育み母子とその家族が健やかな育児ができるよう支援する。

(2) ゆりかごむさしのフェスティバル(仮称) 【拡充】 (予算額 732 千円)

妊婦と乳幼児のいる家庭を対象としたイベントを保健センターで開催する。子育ての見通しや親子のスキンシップのとり方をわかりやすく伝える講座、相談事業等を実施。また、子育て期の食や地域の子育て支援施設等の情報を啓発。